

CT 検査の注意事項

安全に検査を行うために以下の注意事項のご確認をお願いいたします。

■ ペースメーカーおよび ICD について

通常の検査の場合、当院の CT 装置では本体に 5 秒以上連続して照射する可能性は少ないため、本体が植え込まれている可能性の高い、胸部を含む CT 検査をお受けすることはできますが、ICD に関しては秒数の制限なく本体に照射しないこととあるため、ICD を植え込まれた患者様につきましては、部位によっては CT 検査をお断りする場合があります。予めご了承ください。

ア) 植込み型心臓ペースメーカー

(抜粋)…本体に X 線束が連続的に照射されるとオーバーセンシングが起り、ペーシング出力が一時的に抑制される場合があるので、本体に X 線束を 5 秒以上照射しないよう十分に注意すること。

イ) 植込み型除細動器

(抜粋)…本体に、X 線束が連続的に照射されるとオーバーセンシングが起り、適切な治療の一時的な抑制又は不適切な頻拍治療を行う可能性があるため、本体に X 線束を照射しないよう十分に注意すること。

原文【医政総発 11250001 号】【医政総発 0924 第 3 号】

■ CT 造影剤の禁忌について

当院で採用している造影剤の添付文書にある禁忌および原則禁忌に該当する場合は、原則的に検査をお断りいたします。

◆ 禁忌

- ◇ **ヨードまたはヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者**
- ◇ **重篤な甲状腺疾患のある患者**

❖ 原則禁忌

- ◇ 一般状態の極度に悪い患者
- ◇ マクログロブリン血症の患者
- ◇ 気管支ぜんそくの患者
- ◇ 多発性骨髄腫の患者
- ◇ 重篤な心障害のある患者
- ◇ テタニーのある患者
- ◇ 重篤な肝障害のある患者
- ◇ 褐色細胞腫のある患者およびその疑いのある患者
- ◇ 重篤な腎障害のある患者

■ CT 造影剤と併用注意薬剤について

当院で採用している造影剤は下記薬剤と併用することに注意を要します。

薬 剤 名: ビグアイド系糖尿病薬 (メホルミン塩酸塩、ブホルミン塩酸塩等)

臨床症状・措置方法: 乳酸アシドーシスが現れることがある。

※ 本剤を使用する場合は、ビグアイド系糖尿病薬の投与を一時的に中止するなど適切な処置を行う。

機 序 ・ 危 険 因 子: ビグアイド系糖尿病薬の腎排泄が減少し、血中濃度が上昇すると考えられる。

■ eGFR 値について

当院では造影剤の投与の可否を判断するに当たり、腎機能を評価する値として eGFR を指標としています。eGFR が 45 [ml/min/1.73mm²] を造影可能な下限としています。

eGFR の値は検査日前の 1 ヶ月以内に測定した値とさせていただきます。1 ヶ月前以前に測定した値しかない場合は改めて測定していただきたく存じます。(※検査当日に当院で測定する方法もございます)